



第22号

こまがた元気会だより



コメ検査スタート

こまがた元気館の利用が変更されます！

9月に入り、JAさんのコメ検査業務が始まりましたので、昨年と同様約3か月間は、こまがた元気会では建物の北側一角を事務所として使用します。打合せ等の利用も4～5名程度までとなりますので御了承をお願いします。

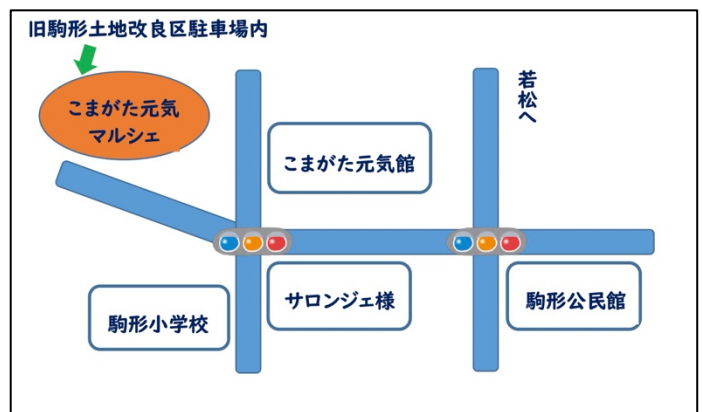
◆農産物直売所（こまがた元気マルシェ）も、期間中移転します。

旧駒形土地改良区敷地内（田中乙 236・駒形小学校南側向かい）のプレハブハウスで営業します。開店時間等はこれまでと同じです。

※出荷会員は現在14名です。簡易な手続きで取り扱っていますので、他に出荷せず、家庭でも食べきれないような野菜があれば出荷を検討してはいかがでしょうか。野菜の運搬が困難な場合なども元気会事務局に気軽に相談してください。



新しい仮設店舗の様子



仮設店舗の地図

ざる菊も大きくなりました！

花で彩る駒形の里づくり実践検討部会で取り組んでいるざる菊作りですが、第1ほ場（田中・龍泉寺と深沢神社の中間地点）も第2ほ場（藤権現遺跡発掘現場南側向かい）も直径1mぐらいに枝が丸く広がってきました。10月下旬から11月初めが見頃になると思われますのでお楽しみに！（入園？観覧無料です。）



第一ほ場（左）と第二ほ場（右）の様子です。



令和4年9月15日 発行：こまがた元気会

《連絡先》喜多方市塩川町中屋沢字田中乙3（里の駅こまがた元気館）

電話 080-2805-1050（事務局：大平）

メール koma.genki7.7@gmail.com

《編集協力》NPO法人かけはし（代表理事 石島 来太）喜多方市寺田4905-21

～ 駒形の見どころ探訪 ～

駒形地区の様々な見どころを紹介していく本企画！

今回も雄国山麓三沢入山の「秘水」の話題をご紹介します！

雄国山麓三沢入山秘水探訪 ②

三沢入山秘水には、伝説がありますので紹介しましょう。（「三沢入山のあゆみ」、「駒形のあゆみ」の記述を若干編集して引用します。）

『むかし、京都の公家で、しかも国の重鎮たる者に身弱な子供が生まれた。公家一家はそれを非常に苦にされ、なんとかして丈夫な体にしたいと神仏に祈った。果ては巫女などを召して祈祷を続けたところ、神のお告げとて巫女の申すところによれば「奥州会津雄国の麓に、とてもきれいな清水がこんこんと湧き出ている所がある。その清水にて食事一般をつくり、また風呂を沸かして入浴させ、毎日の行事となす時、必ずや健康な体になる。」とのお告げであった。

公家は大喜びで実行に移した。まず姥を召し、その身弱な子供を姥に託したのである。姥は早速、大勢のお供を連れ、山深く登ってみると神宣の通り、きれいな清水がこんこんと流れているので大いに喜び、そこに風呂を作り一生懸命尽くした。

その甲斐あって、かほどの身弱な和子もぐんぐんと丈夫になり、普通以上の健康な体となって、京都の父母のもとに帰ったのである。大きくなるにつれ、父親のあとを継ぎ、天下に名高い人物になったと言われる。この山奥に養生する間、姥はいつも、か弱い和子を懐に抱いている姿が神々しく見えた。そのため、この地所を人々は「うばふところ」（姥懐）と名付けたという。

また、下の地所に「ばんにゃ」という所がある。ここは公家の和子をお守りするため、大勢のお供と番人を遣わして、悪者は言うまでもなく猛獣、大蛇などの害を防ぎ、ことに山火事には注意を払ったと言われている。この地を見守る者共の番所で、ばんにゃ（番屋）の地名が未だに残っている。この地方のわらべ歌に、「ひのばんちょ 火の用心 ばんにゃが焼けたら 水かけろ」というのが今でも歌い残されている。

この湧水地は他に思い当たらないことから、現在の三沢入山秘水と推定される。』

さて、伝説は以上であるが、本件については伝説のみが伝承されていて、筆者の知る限り最近の文献に掲載されているのみであることから、今後は地元識者・郷土史家の専門的な調査や指摘を期待したいと思います。

「むかし」とはいつの時代であろうか、「京都の公家」とは誰であろうか、巫女はなぜ遠地会津駒形雄国山中の清水の情報を知りえたか、「うばふところ」「ばんにゃ」とはどこか等々興味の尽きない伝説です。

次回は、8月2日に行った関係者による現地調査の様子を紹介します。お楽しみに！